

(単元) 情報社会と問題解決

(本時のねらい)

- ・問題の発見・解決を行う学習を通して, 情報と情報技術を効果的に活用し, 情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成すること。
- ・地域活性化など地方創生に関する問題解決を行うための情報技術の習得や課題解決の方法を身につける。
- ・データ可視化ツールの仕組みを学び, RESAS に代表される Web ツールを活用し, データ分析の手法を身につける。

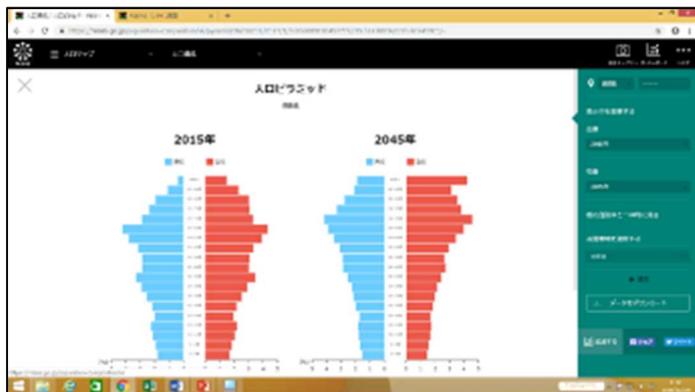
(ICT 活用方法)

- ・タブレット端末を用いて生徒に電子黒板システムで発表させる。
- ・PC 等を使用して RESAS による分析及び問題の発見・解決を行う。

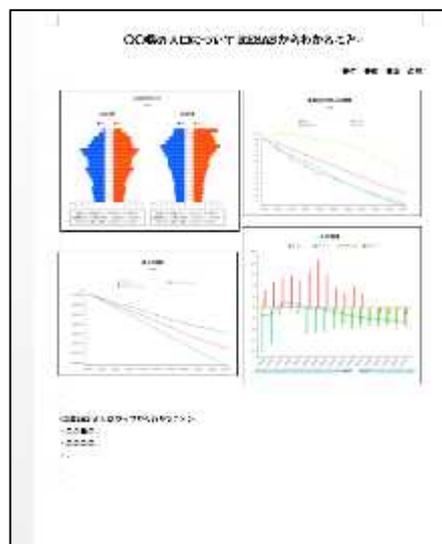
(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法	備考
	RESAS のデータを根拠に意見を主張してみよう。			
導入 5 分	1. はじめに (スライド 1) ・実社会におけるデータ活用の意義を理解する。	・本時の学習課題を掲示する。 ・意見の主張のためのデータの選択や示し方に着目させる。		
展開 40 分	2. RESAS について理解する。(スライド 3～4) ・RESAS におけるビッグデータを集約させることや可視化させることの意義を理解する。 3. 課題 1 (スライド 5～6) ・RESAS の使い方を理解する。 ・実際に RESAS を使い, 生徒の居住地の	・実際に RESAS の HP を示しながら説明を行う。 (インターネット検索画面から RESAS で上位に表示される。) (必要に応じて各種データの説明を行う) ・データが数値で示されるよりも地図上に表示したり, グラフで示されることで全体を俯瞰できることやビジュアル化によりわかりや	・一般的なデータ分析の手順としてはデータを探し, 目的に応じて加工し, 可視化させる必要があるが, RESAS はそのような手順によらず簡単に使用できる。	

(授業の様子)



RESAS 例：人口構成 → 徳島県 → 人口ピラミッド



レポート 例

< 授業スライド >

はじめに

- ・データだけ示してそこからすべてわかるわけではありません。
- ・今回はRESASにおける人口データについて調べてもらいます。
- ・今回の目標はデータを根拠に自分の主張をすることです。その際に重要なのは用いるデータの選択です。

スライド 1

RESASの使い方

スライド 2

RESASとは・

- ・ Regional economy and Society Analyzing System の略 **地域経済分析システム**
- ・ 地域経済に関する様々なビッグデータ、世帯の動き、人の流れ、人口動態などを、地図やグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステム。
- ・ インターネットで誰でも利用可能！
- ・ 誰もが簡単に使える、分かりやすい画面操作！
- ・ データに基づいて、地域の実情を把握・分析できる！

スライド 3

RESASのデータを使うと何ができる？

- ・ 多くのデータから、**まちの特徴**がわかる
「まちの良いところ、強み」
「課題や解決すべきところ」
- ・ まちの特徴から、**未来へのアイデア**が浮かぶ
「もっとよくなる仕組み」
「課題が解決する仕組み」

スライド 4

RESASを使ってみよう！

課題 1

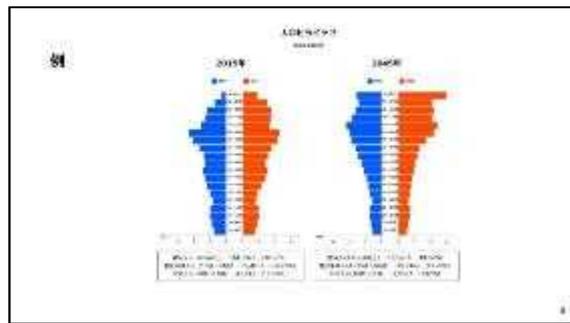
〇〇県の人口について調べてみましょう！

スライド 5

スライド 6



スライド 7



スライド 8

RESASを使ってみよう！～レポート作成～

- ・レポート様式 Word 設定
→A4 余白狭い
- ・RESASで街の人口についての
グラフ等抽出
- ・抽出したグラフをWordでレ
ポートに貼り付ける
- ・ファイル名→〇〇

スライド 9

データの比較 ～地域を追加する～

スライド 10

画像の貼り方
Snipping Toolを使う
アプリ：画の中心から
Snipping Toolを起動

スライド 11

画像の貼り方
①画面にSnipping Toolがあるので
新規作成をクリック
②縮小したい箇所を選択
大きくとって後でトリミングしてもよい

スライド 12

画像の貼り方
①新しくwindowが開くがコピーはで
きているのでwordに貼り付けすれば
OK
②画像を自分のフォルダに保存して
もよい
③挿入は大きさや位置、文字列
の折り返し等を容易に変更するこ
と

スライド 13



授業の様子

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

RESAS からデータを抽出し，自分の意見を発表することでは個人差が大きく，発表においても質的な差は大きい。しかし，RESAS の作業や電子黒板システム，PC 等の操作はほとんどの生徒が簡単にできていた。今後，ICT 等の情報スキルに関してはますます個人差が大きくなると考えられるので個々に対応するための授業準備が必要である。